

話題 其の30: “2回目のラマダン突入?”

11月6日、私がここで生活を始めて2回目のラマダンが始まりました。

まずここで、前回(昨年)私が学習したラマダンを復習しておきましょう。

- 1) ラマダンは断食を意味する言葉ではなく、イスラムの暦で9番目の月、いわゆる日本語の9月、英語のSeptemberです。この月は断食をして、聖なる月を祝う事が慣わしです。ですからお正月のようにHappy New Yearと同じように、Happy Ramadan と声をかけてくる人さえ居ます。(お前もやれよ って聞こえます)
- 2) 共に断食することで、イスラム教徒による同胞意識とか連帯、結束が強くなり、また同時に貧しい人の境遇を共有する。という意味合いがある。
- 3) この約1ヶ月は、町中の一般ドライバーの運転が確実に荒くなる。クラクションを聞く回数と激しさでそう感じます。
- 4) 断食なのに人々の購買力は高まる。連帯の為の習慣ででしょうか、「皆、よく空腹に耐えたね」と労をねぎらうように、お互いの家でご馳走を作って招待する。日本で言えばお正月の3ケ日が1ヶ月も続くという感じでしょう。(キーフ ハーレック第8号及び第9号に紹介)

さて、今年は?

私の通勤時間途中には滅多に見ない交通事故を、初日は3件も目撃しました。

職場では、2日目の朝から大の大人2人が大喧嘩しました。これも滅多にないことです。

ヘビースモーカーの2人はタバコが吸えないからなのか、空腹だからなのかイライラしています。

ラマダンについて、友人の説明は「“聖なる月”とは憎しみ合わず、争わず・・・。」ということですが。

それに反して、交通事故や大喧嘩して周りの人たちに不安や不快感を与えているのが、現代のイスラム教徒(一部?)の姿なのでしょうか?

彼はラマダン初日、午前3:30に起きて6歳の子どもも含めて、お祈りし、家族と共に朝食を取ったそうで、少し眠たそうでした。すごく穏やかで、敬虔なイスラム教徒です

私の職場では、ラマダン中の勤務時間が通常より90分短くて、朝7:30から午後1:30までです。

この間、「飲まず、食わず、吸わず」の状態です。当然、仕事への集中力は落ちますよね。

しかし、国連機関のこの職場には私を含めた外国人が勤務しているので、他の職場に比べるとまだ自由な雰囲気があるようで、出前専門のキャンティーンも営業しています。

勿論、私も頑張っていますよ。前はこっそりコーヒー呑んだりしていましたが、今回はそれもストップです。なんか国際我慢大会の挑戦者みたいで、動機不純な自分が滑稽です。

現地のスタッフは午前4時過ぎには朝食を済ませるわけですから、出勤した頃にはそろそろ小腹が空いて、喉も渴き唇が乾燥して白く荒れてきます。(私は6時起床で6時過ぎの朝食です)

そして、勤務が終わる1時過ぎには9時間以上の吞まず、食わず状態が経過しているので、男女を問わず「そろそろ夕食の買い物」にそれぞれと腰が落ち着きません。

そんな彼らが一斉に買い物に向かいます。この2時から4時頃の間には「街中全ての自動車がガレージから出て来ただろう」と思うほど狭い車道に車があふれ、至る所で渋滞が始まります。

昨日は、タクシーも忙しくて拾いにくかったのでしょうか、古い古い車が引っ張り出されて道路でエンストし、交通渋滞になっていました。

夕食は夕方のアザーン(お祈り時間告知)がモスクから聞こえる4時45分くらいから始まります。12時間以上の断食、断飲(ってあまり聞かないけど)に耐えて、食べる喜び、飲める喜びを味わう至福の瞬間です。この瞬間には満足感や達成感が味わえますよ。

そして、私の場合は昼食抜きで、夕食にご馳走を作る料理の腕がないものですから、体重が2kg減量(ラマダン3日目)というダイエット効果が出ています。

生産効率が極めて悪い状態で、日本人には理解しがたい事でしょうが、「やった者にしか解らない」宗教行事(価値)継承の様です。まるで「岸和田のだんじり祭り」みたいな・・・・。???
